

## 定例記者会見

3月23日(金)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、豊田会長は中部圏の経済情勢に触れ、中経連会員へのアンケート調査において、6期連続で景況判断が改善するなど中部経済が好調であるとの見方を示した。先行きについては、米国の鉄鋼・アルミ輸入制限、北朝鮮問題などの世界経済への影響を注視する必要性を述べた。

次に、中経連の2018年度事業計画を発表(本誌2～7ページ参照)。新委員会体制2年目は各活動の「進化」と「深化」を図り、中部圏の魅力向上に取り組むとの抱負を語り、特に3つの重点テーマに関する活動計画を次のとおり紹介した。①「中部圏の将来ビジョン策定」については、今秋をめどに完成させ、中部の将来像と課題を具体的に示し、行政に強く働きかけていく。②「イノベーションの活性化」については、人材育成および事業開発のプログラムを5月から立ち上げる。③「人材育成」については、教育委員会との意見交換の場を早急に設置するとともに、中部経済4団体が連携した共同事業を検討していく。

続いて、イノベーション委員会の委員長を務める竹中副会長が、報告書「中部圏のイノベーション活性化に向けて」を公表(本誌8～9ページ参照)。「この先10年で1,000人のイノベーション人材を輩出する」と抱負を述べ、イノベーション活性化に向けて報道を通じた機運醸成を、会見に出席した記者たちに呼びかけた。

(総務部 奥田 知子)

## 第12回中部コーディネータ 研究フォーラム

3月26日(月)、中経連は「第12回中部コーディネータ研究フォーラム」を開催し、中部5県のよろず

支援拠点コーディネータ、支援機関・大学のコーディネータ、中堅・中小企業支援に関する有識者・研究者など19名が参加した。

はじめに、セレンディップ・コンサルティング(株)代表取締役会長の高村<sup>のりやす</sup>徳康氏を講師に迎え、「後継者不在による『技術断絶』を回避せよ!～M&Aによる事業承継とプロ経営者派遣～」と題し、ご講演いただいた。同社は中小企業の後継者難と廃業増への危機感から、株式取得とプロ経営者派遣による経営の近代化と事業承継を支援しており、同社のビジネスモデルや支援事例が紹介された。



ご講演いただいた高村会長

続いて、セレンディップ・コンサルティング(株)シニアコンサルタントの松山豊氏、ならびに同社からプロ経営者(CFO)を受け入れて経営改革を推進する(株)協立製作所代表取締役社長の豊田秀行氏、CFOとして派遣された梅下翔太郎氏を交えたパネルディスカッションを行った。豊田氏は先代社長の急逝により経営を託された現場たたき上げの経営者だが、株式売却やプロ経営者受け入れに至った経緯、経営改革の取り組みなど、中小企業経営の苦労話を紹介された。



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションの後は、活発な質疑が行われ、「本フォーラムで紹介された方法は事業承継問題を解決する方策の一つとして有効」という意見が多くあがった。

次回は6月に開催する予定である。

(産業振興部 佐々木 彰一)